



安全・安心な周術期医療の構築

医学部 教授 二階 哲朗

当院では安全・安心な周術期医療の提供を方針として掲げています。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法・臨床工学技士などの多職種が連携するチーム体制を構築し、術前から術後まで切れ目のないケアを提供することで、安全性と効率性を両立しています。このような取り組みにより地域の皆様へ高度で安全な手術を保証し、誰一人取り残さない医療（Universal Health Coverage）の実現を目指しています。

大学病院として優れた医療人材を育成することも重要な使命です。若手医師へは周術期に関して豊富な専門知識と技術を習得できる教育体制を整え、SDGs 4「質の高い教育をみんなに」の達成に取り組んでいます。また、多職種間の対話によりそれぞれの業務負担を軽減し共有することで医療スタッフの心理的安全性の高い職場環境を構築しています。この取り組みは SDGs 8「働きがいも経済成長も」、SDGs 17「パートナーシップで目標を達成」への貢献につながります。

周術期医療の運営においては、患者さんの医療サービスに対する評価も重要な指標と考えております。そのため、術前は処置に関して十分に説明し、不安の軽減と信頼関係の構築に努めています。また、術後疼痛管理チームによる積極的な疼痛管理は、術後合併症の予防や早期回復のサポートとして患者さんの満足度向上につながります。円滑な周術期ケアを支える多職種チーム医療が効果的に機能することで、患者さんが安心できる周術期医療の提供を実現しています。これらの活動は、患者さんの早期社会復帰を後押しし、SDGs 3「すべての人に健康と福祉を」の実現にも貢献するものです。

以上のように、当院の周術期医療では、安全な医療提供、人材育成、患者様満足度向上、の三本柱を通じて

SDGs 3「すべての人に健康と福祉を」

SDGs 4「質の高い教育をみんなに」

SDGs 8「働きがいも経済成長も」

SDGs17「パートナーシップで目標を達成」

の達成に貢献しています。これらは大学病院としての社会的使命を果たすものであり、高度医療機関としての価値を示すものです。今後も周術期医療の質の向上と持続可能な発展に努め、社会に貢献し続けてまいります。

チーム医療の実践

